

放送大学鳥取同窓会会報

# 麒麟 きりん

## 第 6 号

発行：鳥取同窓会  
麒麟編集委員会

発行日：2018年9月30日  
〒680-0845

鳥取市富安2-138-4  
放送大学鳥取学習センター内



### 【目次】

- 1 ページ…表紙「蘭島（あらぎじま）の棚田」 撮影：山根國宏
- 2 ページ…「技術の壁」 西本弘之
- 3 ページ…「在学10年を振り返って！」 卒業生代表奥谷吉男
- 4～5 ページ  
…平成30年度鳥取同窓会定期総会について（報告）副会長澤田廉路
- 6 ページ…「苦手なことは楽しいこと？」三ツ國全代
- 7 ページ…第6回中国四国地区放送大学同窓会交流会（報告）
- 8 ページ…表紙の言葉 今一番楽しいこと ビアパーティ開催
- 9 ページ…研修旅行（報告） 「放大まつり（第5回）」開催決定！
- 10 ページ…事務局便り

# 技術の壁

鳥取同窓会会長 西本弘之

新しいことを行おうとすると、必然的に壁が存在します。自分の勉強不足もあれば、現在の社会にないもので入手が困難な場合もあります。私は、鳥取県の産業技術センターに勤務して研究開発の仕事をしていました。県内企業の技術的な課題を解決する仕事ですが、多くの課題が、企業内で解決できないために技術相談にきている案件で簡単に解決できることは多くありませんでした。

解決の課題を幅広く見ることに努力していました。この幅広く見る視点が、放送大学の学習を続けている理由です。問題の本質は、ほとんどある物理現象、化学現象で説明できることがあります。放送大学の学習は専門性の深い面より幅広く物事を整理して見ることに役立ちました。仕事では、解決案を3つ以上提案することを心がけています。時間軸（短期、中期、長期）さらに、解決までの費用（安価、中間ぐらい、高価）の費用により提案しています。企業の開発には経済的な面の判断がどうしても必要で、技術的にはベストでも採用されないことが多いものです。企業側の判断では、このような時に役に立つのが時間軸の限界まで安価でゆっくり解決する選択が多くありました。

実際の例として、県内企業の会社が新製品開発を決めたのですが、技術者がいない状態で相談を受けたことがあります。開発したい案件をそのまま行えば次の開発も私のところで開発しなければならなくなり、いつまで経ってもその企業の協力をしなければならない案件となりそうでした。そこで、開発案件とちょっと違うのですが、開発手順をトレーすることをを行い、人材育成を行い、新製品開発まで1年半で人材育成と大手企業で販売できる製品を開発することができました。

よいアイデアの実行には必ずその前に立ちはだかる壁があります。私は「壁の超し方が大切」と考えているのですが、いろいろな案を作るときに、放送大学で幅広く学ぶ知識が有効に働いたと考えています。最初の学校は、専門の学習をして卒業したはずですが、忘れていることも多く、さらに技術進歩も激しいので、放送大学の学習は貴重な手段だと考えています。

知人にも入学を勧め、今年から卒業を目指して入学して勉強を始めることができた人がいます。少しでも放送大学の学習を始め目標を持って、進んで欲しいと思います。





## 在学10年を振り返って！

全科履修生（現：心理と教育コース）奥谷吉男  
（2017年2学期「生活と福祉」卒業）

今年で満73歳になった。後期高齢者に仲間入りするまで後2年、そして、男性の平均寿命まで生きたとしても後約8年を残すのみとなった。

若いときには、まさか自分がこんな歳まで生きるなんて思いもしなかったが統計を取り始めた1947年の日本人の平均寿命は、男性が50.06歳、女性が53.96歳だったので“まさか自分が”と思うのもやむを得ないのかもしれない。

それが、2016年には男性が80.98歳、女性が87.14歳との約30年も寿命が延びたのだから、これまでの人生設計をそっくりと考え直さなければならぬのではというのが正直な感慨です。

そんな思いもあって、退職後の自由な時間をどうエンジョイしようかと考えていたとき、県立図書館で放送大学のパンフレットを見て、これだ！と思い入学を即決した。

平成19年4月に選科履修生として入学し、翌20年4月には鳥取学習センターの職員の方からのアドバイスで全科履修生に入学した。

その後、「健康福祉運動指導者」と「食と健康アドバイザー」の認証をいただいた頃から、少しずつ学ぶことの楽しさ、喜びを味わうことができてきた様に思う。

平成23年5月に、県から出向していた（財）鳥取県環境管理事業センターを退職し、これからの余生を楽しみにしていたのも束の間、いろいろな団体の委員や地区の区長などを引き受ける羽目となり、健康のために始めた卓球や、子どもたちの喜ぶ顔を見るのが楽しみで続けている家庭菜園などをやっている、現役のときよりもむしろ忙しい毎日を過ごしているように思う。

放送大学に入学したときは、卒業することなど考えてもいなかったが、少しずつ単位を修得していくうちに卒業したいという思いが強くなり、毎朝3時頃に起きて2時間程の勉強と1時間のウォーキングを行っている。

入学してからの10年間は、振り返ってみるとあっという間に過ぎ去ったように思う反面、導火線の短い私が挫折もせずによく我慢して学び続けてきたものだと思ながら感心し、元女子マラソン選手の有森裕子さんではないが「自分で自分をほめてやりたい」と思っております。

放送大学で学んだこの10年間を通して、ものを学ぶということの楽しさを、この歳になって初めて気付かせていただいた。

これからも、この気持ちを忘れないようにして、余生を十分に楽しみながら学び続けていきたいと思っております。



# 平成30年度放送大学鳥取同窓会



## 定期総会について（報告）

副会長 澤田廉路

平成30年6月9日（土）11時00分～正午、  
放送大学鳥取学習センターの多目的室にて開催されました。

来賓として特別会員でもある小林鳥取学習センター長と田中事務長にも参加していただきました。

総会では、平成29年度事業報告、平成29年度会計決算報告及び会計監査報告・業務監査報告と平成30年度事業計画案、平成30年度予算案の説明がありました。

### 1. 同窓会役員の運営体制について

会 長 西本弘之

副会長 澤田廉路 清水道代 三ツ國全代（新）

理 事 佐々木純子 山田順子

安田直人（新） 森下俊行（新） 鈴木輝博（新）

監 査 清水謙一（新） 濱吉晶子（新）

相談役（追加分） 林 哲博（新） 木幡鞆夫（新）

### 2. 会員の加入状況について

平成30年4月30日現在67名（2名入会）

（内訳：一般48名、特別会員19名）

### 3. 活動内容について

平成29年度の「活動経過報告」は次のとおり

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

会議の開催

#### （1）通常総会

と き 平成29年5月14日（日）11：00～12：10

と ころ 放送大学鳥取学習センター 多目的室

出席者 16名

内 容 ①平成28年度事業報告・会計決算報告及び監査報告。

②平成29年度事業計画・同予算案等の案件について審議され、提案どおり承認された。

#### （2）役員会

当面の具体的な活動計画及び「開設20周年記念事業」への取り組み（参加、協力、支援活動等）、会員募集についての今後の取り組み等について協議

以上のほか、本会運営に当たり必要の都度、役員会及び役員三役等による打合せを実施

## 事業の実施

- (1) 「放送大学鳥取学習センター開設20周年記念事業」に対する取組  
鳥取同窓会も主要事業として積極的に協力・参加した。

と き 平成29年11月19日(日) 10:00~18:30

ところ とりぎん文化会館(第一会議室および展示室)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 記念シンポジウム | 10:00~12:00 |
| ② 記念式典     | 13:30~14:10 |
| ③ 記念講演会    | 14:30~16:00 |
| ④ 記念祝賀会    | 17:00~18:30 |
| ⑤ 記念展示会    | (11月19・20日) |

- (2) 卒業をお祝いする会

と き 平成29年4月2日(日)及び同29年10月1日(日)

ところ 鳥取学習センター

内 容 学位記伝達式終了後の食事会(卒業を祝う会)に会長以下  
会員有志が出席し、卒業生に対し祝意を表明(会長による  
抹茶提供等)

- (3) 麒麟4・5合併号の発行

発刊日 平成29年12月9日

## その他

- (1) 在学生・教職員との交流会

(学友会主催のビアパーティ・忘年会等に共催参加)

- (2) 第20回放送大学同窓会連合会通常総会:出席副会長澤田

(平成29年5月27~28日 放送大学本部図書館)

- (3) 第5回中四国地区同窓会交流会 出席:会長西本、澤田副会長

(平成29年9月16~17日 徳島学習センター)

- (4) 放送大学鳥取学習センターHPの活用

- (5) 放送大学鳥取学習センター主催公開講演会の聴講

## 4. 放送大学鳥取同窓会平成30年度事業計画

- (1) 役員会の開催

- (2) 会報の発行(年2回)

- (3) 研修会・親睦会の開催

- (4) 在学生・教職員との交流会の実施(学友会と共催:8月、12月)

- (5) 鳥取学習センター主催講演会その他行事等への積極的参加及び協力

- (6) 卒業・修了を祝う会の開催

- (7) 放大大まつりへの参加(実行委員会)

- (8) その他、会則の目的に沿った事業の企画実施及び助成金事業の申請  
の検討

上記、事業の実施にあたって、他の同窓会等との意見交換をするなどして、  
積極的な活動展開を目指そうという意見も出た。 以上

## 苦手なことは楽しいこと？



三ツ國全代

人は見た目が90%とか、100%とありますが、質問です。

「一目見て、好きだなあと思う人と、苦手だなあと思う人がいます。好きだなあと思う人をその後苦手になる確率と、苦手だなあと思う人をその後好きになる確率、どちらが高いでしょうか？」

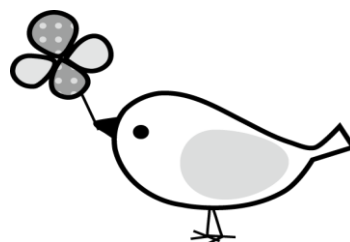
大抵、「自分だったらどうだろう？そういえばこんなことあったな」などと考えながら回答してくださると思います。しかし、この質問の答は、「わからない」です。答を聞いてがっかりされたかもしれず、申し訳なく思いますが、この「わからない」には理由があるのです。つまり、好きだなあと最初に思ったとき、その人と友達になったり、一緒に何かをしたりして、会う機会が多くなると思うのですが、最初に苦手とってしまった場合、その人とは遠ざかってしまいます。つまり、一目見たときからスタートしても、その後の接触の回数が変わるので、同じ土俵で比べられないのです。苦手な人も実は素晴らしい人だったかもしれないのに、気づくことができないままかもしれません。

私たちは毎日、「苦手なこと」に遭遇しながら生きています。当然のように苦手なことは避けてしまいます。「興味ないこと」「できない、関係ないと思っていること」も同じです。これは仕方のないことですが、私たちはこのように自分自身で「機会」を失う行動をとっていることがあり、素晴らしい発見に気づかないでいることが多々あることを改めて思い知らされます。

勉強嫌いで付き合い下手だった私も40歳代後半でやっと、大学に目を向けることができました。一人で学ぶ通信制大学とはいえ、授業だけでなくセミナーやサークル活動、懇親会などに参加することで、若い頃に遠ざけていたことの中にも素晴らしい出会いや発見があり、自分が積極的に関わることで世界が広がることに気づきました。苦手なこともまだまだありますが、知る機会に巡り合えたと考え、得をしたような気分で、楽しくなってきます。苦手なことを楽しいことに変える癖もついたような気がします。そして、これからの毎日をできるだけ明るく、丁寧に、有意義に過ごせたらと思うのは、やはりそれなりの年齢になったからでしょうか。

私たちは放送大学鳥取学習センターを通じて、偶然に出会った仲間です。卒業したら終わり、ではなく、ほんの少し意識して、出会った方々のいろいろな考え方、生き方に目を向けてみてはどうでしょう。

人生をより愉快地に、そして豊かにしてくれる何かが見つかるのではと思っています。



## 第6回中国四国地区放送大学同窓会交流会（報告）

と き：平成30年9月15日（土）～16日（日）

ところ：放送大学山口学習センター（山口大学吉田キャンパス内）  
大講義室1階・大学会館講義室2階

主 催：放送大学山口学友同窓会

参加者：放送大学池田副学長、連合会から役員3名、島根・広島・岡山・  
徳島・香川・愛媛・高知・鳥取から28名、山口から14名  
（計42名）

上記交流会に、鳥取同窓会から副会長澤田廉路、同清水道代、同三ツ國全代、  
監事清水謙一、理事立脇寿江の5名が出席した。

山口学習センター岡村所長講演（イスラームについて）の後、放送大学池田副学長による講演（放送大学の現在の課題と同窓会やセンターへの期待）があり、放送大学新時代に向けた内容の講演の後、意見交換が行われた。続いて、各地区同窓会の活動報告発表、情報交換、討議が行われ、各地区同窓会の抱える共通の課題が浮き彫りとなった。特に、放送大学において学習方法が変わりつつあり、センターの利用者減少が取りざたされる中、地方のセンターの在り方に対する不安、地区同窓会の活動、現役学生と同窓会員の二重構造、役員の高齢化など様々な問題が提議され、それについて活発な意見交換がなされた。切実な問題に対する打開策、解決策を見出しがたい状況にあるものの、各地区同窓会役員の前向きな発言と、「放送大学で学ぶ」ことを長年続けている参加者の学ぶ姿勢や懇親会での明るい笑顔に接していると、いつもは「見えない友（学歌より）」に触れることで、放送大学同窓会員であることの喜びと誇りに改めて気づかされた。

翌日は、「明治維新散策源地」というテーマで、藩庁門・山口県政資料館、瑠璃光寺・五重塔などを見学しながら会員間の親睦を深め、来年の再会を誓い、散会した。

当交流会では、山口学友同窓会の皆様に大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

池田副学長様、連合会の皆様、中国四国ブロックの皆様、勇気と希望をありがとうございました。  
（報告：清水道代）



第6回中国四国地区放送大学同窓会交流会（放送大学山口学習センター）

表紙の写真：タイトル「蘭島の棚田」撮影 会員 山根國宏

残暑厳しい8月27日、大阪から阪和道をひたすら3時間半走ると、和歌山県はみかんで有名な有田ICに到着します。

ICを降りて国道480号線に乗ると有田川沿いにくねくね1時間半縫うように走ると「日本の棚田百選」にも選ばれているこの棚田が忽然と現れました。

私は、この光景を2年前テレビで初めて見たとき、恋人に会ったような胸の鼓動を覚えています。それか今日まで心の中で大切に温めてきましたので、ドキドキしながら思わずシャッターを何回も切りました。



今一番楽しいことは？：ずばり「地学！」 会員 清水謙一

放送大学に入学するまで地学についての知識はそれほどでもなかったが、興味・関心だけはたくさんあった。放送大学で「自然と環境」を学ぶうち、それまで目に留まらなかった崖や砂浜など、自然の中や街中などで地質や地形に目が行くようになり、放送大学での勉強の中心はいつしか「地学」になっていった。2015年2学期に「自然と環境」を卒業した後は、地学の知識をさらに深めるべく「鳥取地学会」に入会した。

今年の夏には、鳥取県立博物館主催「化石を探せ！in 春米」のイベントで鳥取地学会会員として博物館のお手伝いをした。夏休みのイベントだけに、参加者は小学生が中心だったが、同伴したお父さん、お母さんも、その時ばかりは童心に帰り、子供も大人も夢中になって化石を発掘した。

一方、1学期には、高知・鳥取・島根・徳島の各学習センターで開催された地学、地震学の面接授業を受けるなど、地学の知識を日々研鑽している。

世の中、地学は敬遠されがちだが、構造物やインフラの整備、温泉の恵み、地下資源を得るなど、社会生活の中で地学の知識を必要とする場面は数多い。そして、表紙の写真の棚田のような自然と人が作り上げた日本の原風景に触れることなど。今、一番楽しいことは、「地学」を勉強することです。

ビアパーティが開催されました

とき 平成30年8月11日（土）

ところ ホテルニューオオタニ鳥取屋上ビアガーデン

参加者 19名

小林所長をはじめ、事務長、客員教員、同窓生、新入生など黒ビールなどで盛り上がり、話も弾み、総勢19名で、平成最後の夏をにぎやかに過ごしました。





## 鳥取学習センター平成30年度研修旅行：備前長船刀剣館・旧閑谷学校

と き：平成30年9月9日（日） 参加者：24名

岡山県備前市にある「備前長船刀剣博物館」は、刀剣を専門に展示している国内でもめずらしい博物館です。歴史に彩られた「備前長船」などの名刀も揃っています。中国山地の良質な「砂鉄」を原料として、平安時代か「備前刀」を確立して高い技術と多大な生産性を誇り、数々の名刀を世に生み出していたことを展示物から知ることができます。また、その技術は現代にまで引き継がれ、施設内では刀剣づくりを見学することができました。ただ、滞在時間が短くて、駆け足での鑑賞となりました。



旧閑谷学校は、寛文十年(1670)、岡山藩主池田光政が創建した日本ではじめてとなる「庶民のための学校」です。山間の谷深き地の学校は「閑谷学校」と名付けられ、明治、大正、昭和とさまざまな分野で、現在の日本の歴史をかたち作る有能なリーダー達を輩出してきました。「庶民教育の殿堂」としてその後、その思いは340年経った今も、現存しています（パンフレット参考）。

雨の中、3班に分かれ、それぞれガイドさんと共に見学しました。校門（鶴鳴門）、聖廟、石堀、講堂（国宝）、櫓の木、閑谷神社、資料館など、みどころ満載でした。岡山藩は鳥取藩と縁が深く、とても親しみを感じました。「春夏秋冬、雨も晴も、いつ来てもいいところです」とガイドさんがいわれていたのがとても印象的でした。



聖廟の前の麒麟像

## 平成30年度「放大まつり（第5回）」開催決定！

と き 平成30年11月23日（勤労感謝の日） 9：00～16：30

ところ 鳥取市駅南庁舎 鳥取学習センター（主会場）

今年のテーマは、「駅南庁舎ハンパないって！」。学び舎である鳥取市役所駅南庁舎5階放送大学鳥取学習センターをメイン会場に、2階「鳥取市立図書館」6階「フィットネスクラブPAJA」を巻き込んで、放送大学生の学習成果、演奏会、作品展示、がん予防の公開講演会など、盛りだくさんの企画です。鳥取同窓会も、実行委員会で全面協力しています。鳥取駅南庁舎で「知力」

「学力」「体力」を身につけよう！

詳しくは、「ぷりずむ」をご覧ください。



作戦会議中だよ！！



## ◇ ◆ 事務局便り ◆ ◇

### \*新会員紹介\*\*\*\*\*

奥谷吉男氏（「生活と福祉」 平成30年3月卒業）  
川下博史氏（「社会と産業」 平成30年3月卒業）  
（敬称略、順不同）



また、会員田中穰氏（生活と福祉）、同濱吉晶子氏（生活と福祉）が卒業されました。おめでとうございます。

### \*会員状況（平成30年6月9日現在）\*\*\*\*\*

一般会員48名 特別会員19名（計67名）

### \*学友会共催事業について\*\*\*\*\*

在学生・教職員の方々との交流・親睦を図ることを目的に、納涼会・忘年会などを企画しています。鳥取学習センターのホームページ、機関誌「ぷりずむ」をご覧の上、事務室にお申込みください。ご参加、お待ちしております！

### \*鳥取同窓会会報誌「麒麟」原稿募集\*\*\*\*\*

鳥取同窓会事務局では会報誌「麒麟」の原稿を随時募集しています。会員の皆様の学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、詩、自慢話、ちょっといい話など、形式は問いません。（1,000文字程度）。

また、当会に対するご意見、「麒麟」に関するご感想などもお寄せください。

#### 「麒麟」原稿送付先



放送大学鳥取学習センター気付 鳥取同窓会宛（担当：清水道代）

〒680-0845 鳥取市富安2-138-4

Tel (0857) 37-2351 fax (0857) 37-2352

### \*編集後記\*\*\*\*\*

記録的な豪雨、猛暑、相次ぐ地震など、平成最後の夏は様々な自然災害に見舞われました。会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？ わたくしごとで恐縮ですが、9月に札幌への旅行を計画していました。病気療養中の伯父を見舞うためでしたが、9月6日未明に発生した地震のため、断腸の思いで断念しました。まさかの「北海道地震」でした。日本列島に暮らすことは、災害と隣りあわせだということを感じ、身の回りの安全・減災対策に加え、災害が起きた後のところと気持ちの持ち方について、考えさせられました。

その一方で、「麒麟6号」の編集を終え、会報誌を皆様にお届けすることができ、ほっとしています。今年度から年2回の発行を計画し、鳥取同窓会の取り組みや活動、会員の皆様の現在についてお届けしたいと思っています。

鳥取同窓会に対するご意見、麒麟に関する感想、原稿などをお寄せください。お待ちしております。  
(M. S 記)